①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・合同な図形では，対応する辺の長さや角の大きさが等しいことを理解している。

○既習とつなぐ見方・考え方

・形を写し取るときに頂点を写す経験をしている。

≪学習問題≫

三角形ABCと合同な三角形DEFの

かき方を考えよう。

教材研究ノート№5-B-2

Ａ

Ｃ

Ｂ

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫

②見通し: 3つの頂点Ｄ，Ｅ，Ｆが決まれば三角形がかける。

→BC＝EFとなる辺ＥＦをひいてから，辺の長さや角の大きさを測って点Ｄを決めればよい。

②学習課題：必要な辺の長さや角の大きさを測って，なるべく少ない条件で頂点Ｄの位置を決める方法を考えよう。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

③個人追究：頂点Ｄの位置を決める方法を考える。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「どの辺やどの角を使ってかいたのか，説明しよう。」

→「3辺」「2辺とその間の角」「1辺とその両端の角」

④共同追究後半（思考を深める）

「測っていない辺や角があるけれど，2つの三角形は合同になっているのかな。」

→「かいた三角形DEFは三角形ABCとぴったり重なる。」

「辺や角の6つの要素，すべてを必要としないでかける。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・3辺，2辺とその間の角，1辺とその両端の角の3通りのかき方がある。

・三角形には3つの辺と3つの角があるが，合同な三角形をかくには，その中の3つの要素でかける。

⑥定着･活用問題

必要な辺の長さや角の大きさを

選んで，右の三角形と合同な三角

形をかきましょう。

4㎝

6㎝

7㎝

36°

86°

58°

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・見通しをもつ時に，紙に写し取る作業をさせて，図形を決めるには頂点の位置が決まればよいことに気付かせたい。

・どの辺の長さやどの角の大きさを決めれば，頂点Ｄの位置が決まるのかを考えさせたい。作図の技能には個人差があるため，すぐにコンパスを使わせずに，ひごを使って操作することを通して気付かせていくことも考えられる。

【板書計画】